



ソライロアンブレラ Sky Blue Umbrella

藤江竜太郎 Ryutarō FUJIE

作者は、六甲ミーツ・アート 芸術散歩の第一回公募大賞受賞者で、今回で4回目の出展です。その受賞作品から一貫して、六甲山の自然をテーマに作品を発表してきました。今回は、登山の際に人々の命を守るクライミングロープを使って、色とりどりの傘を作りました。

先人たちは、ロープの結び方や様々な色の網目に、魔除けなどの願いを込めていました。そのロープで形作られた傘には、雨をよけるための屋根となるものではなく、見上げれば青空が頭上に広がり、風が頬をかすめて吹き抜けます。この傘は、こうした六甲の自然を感じるためのものなのです。



Exuvia

前田耕平 Kohei MAEDA

丘の上の大きな蟬の抜け殻、会場のランドマークとなる作品です。
作者は京都の芸術大学で後進の指導に携わる傍ら、さまざまな作品を発表してきました。大がかりな作品が多く見られますが、その時々によって手法や素材は様々で固定されていません。自由な思考の流れの中で作品は流動的に生まれて来るようです。本作品は蟬。六甲山に生息する蟬を含めて、この種の誕生からは数百万年もの時間が流れています。この種が存続する鍵として作者は殻に注目しました。抜け殻は更新のシンボルです。

更新する先はどこに向かうのか鑑賞者に思考を促す作品です。



cashless

GermanSuplexAirlines
前田真治 Shinji MAEDA

本年8月に行われた「阪神なんば線ミーツ・アート in あまがさき Produced by 六甲ミーツ・アート 芸術散歩」、本作品は作者がそこで披露した新作をバージョンアップさせたものです。競馬場、競艇場の外れ券を展示場所の土地代と同額まで集めて展示しました。外れ券はアーティスト自らが集めたものです。

土地の価値と同額のお金が動いた確定的な痕跡が集積された立体は新しい概念の彫刻と言ってよいかも知れません。シュールでシニカルな作品ですが、いろいろな意味や情景が浮かんできます。

価値とは何かを考える作品です。タイトルも意味深です。更新する先はどこに向かうのか鑑賞者に思考を促す作品です。



自然の設計

Naturplan

狩野哲郎

Tetsuro KANO

彫刻・建築的なインスタレーションと自然に対する独自のアプローチで注目される作者の作品です。さまざまな日用品が使われていますが、人間によって物に与えられた意味を一旦“無し”にしてこの作品は構成されました。

それは空間へのドローイング素材としての使われ方であると同時に、人間以外の動植物にとってこの作品がどのように見えるかの視点によるものです。例えば鳥にとってこれほどの様に見える、なんらかの意味を持ち得るのか。

六甲山という人の手が入った自然と都市生活がクロスする場で、そうしたことを考えてみます。



ばらの庭

Rose Garden

江頭誠

Makoto EGASHIRA

日本に住む私たちにとって馴染みのある花柄の毛布。古典調で高級感を演出したもののという由来もあるようですが、何処か「実家」感が漂う独特な共通イメージがあります。作者自身が一人暮らしを始めた時に、生活空間に当然のようにあったその花柄毛布ですが、よくよく考えると不思議な存在だと気がきました。その毛布を使って日常の様々なものを包みこんで作品化することで、私たちの文化や習慣の在り方や、ものに付随するイメージの在り方に新しい視点を与えています。本展ではガラス室の中に作品を展開、バラ園の中に設置しました。周囲の環境も含めご鑑賞ください。